

業績説明会資料

# 経営の現況について

2006年5月31日

日本油脂株式会社

# 当社の経営の現況

## 事業の選択と新事業体制の構築

- ・塗料事業・溶接事業の売却、グループ事業の再編
- ・有利子負債の圧縮、財務体質の改善

### 事業のより高い成長への布石

- ・大型商品の育成と拡販
- ・固有技術新製品の市場開拓

### 継続的成長のための布石

- ・基幹事業4部門の体質強化
- ・開発事業部門の育成強化

- ・経常利益100億円台確保
- ・キャッシュ・フローの強化
- ・設備・開発投資の拡大
- ・内部統制の強化

売上高2000億円、経常利益200億円を目指す次のステージへ

## 業績の推移(連結ベース)

(単位:億円、%)

	2004年度実績 (2005/3期)	2005年度実績 (2006/3期)	2006年度予想 (2007/3期)	07中計 当初目標
売上高	1,337	1,432	1,500	1,550
営業利益	83	111	115	N.A.
経常利益	86	117	120	115
売上高経常利益率	6.4	8.2	8.0	7.4
ROA	(2.9) 4.6	3.4	N.A.	4.0
有利子負債	382	287	N.A.	280

( )内は特殊要因調整後

- 2005年度経常利益は、修正予想(110億円)を更に7億円上回り、117億円を達成(期初予想は86億円)。2007中計目標を2年前倒しで達成。
- 2005年度期末配当金は1円増配の6円配当とし、年間9円配当予定。
- 2006年度は、経常利益120億円と3期連続最高益を目指す。
- 格付け(R&I社)は、1ノッチ上昇し、BBB+へ改定(2006年2月)

# 2005年度(06/3期)期初予想と実績の差異分析

(単位:億円)

	2005年度期初 決算短信予想	2005年度 実績
売上高	1,380	1,432
経常利益	86	117
当期純利益	50	65

## 売上高: 52億円増加

- ・需要の好調により、化成品セグメントの売上が、期初予想を約38億円上回った。(その大宗はフィルム製品の売上増。)
- ・油脂製品、火薬・加工品セグメント等で合わせて約14億円、期初予想を上回った。

## 経常利益: 31億円増加

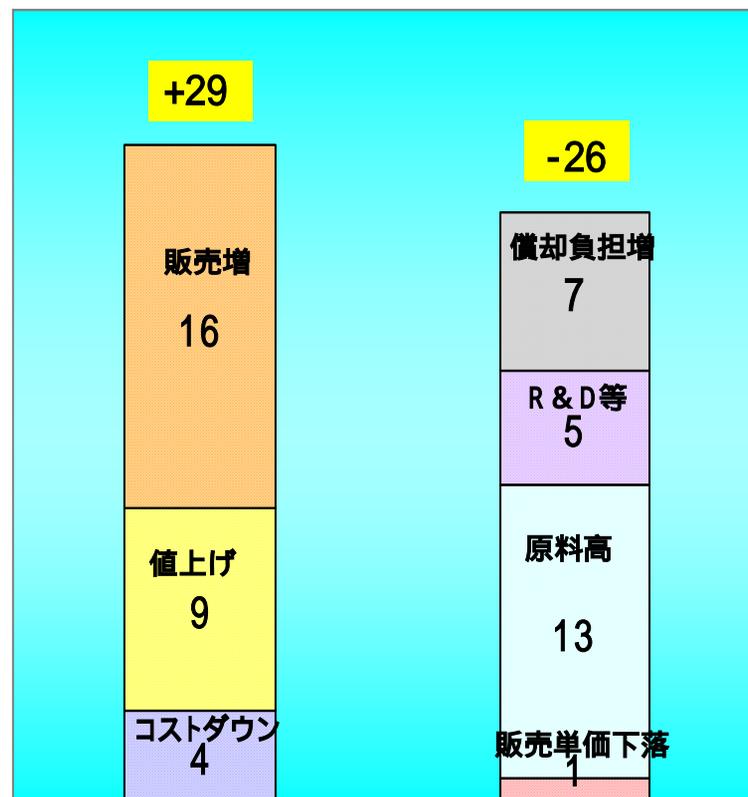
- ・フィルム製品の大幅拡販や、ポリマー事業、PO事業の堅調などで化成品セグメントで、予想を約20億円上回った。
- ・油脂製品、火薬・加工品セグメントで合わせて約6億円増益。
- ・営業外損益の改善で約5億円。

# 2005年度実績と2006年度予想の差異分析

(単位:億円)

	2005年度 (06/3)実績	2006年度 (07/3)予想
売上高	1,432	1,500
経常利益	117	120
当期純利益	65	73

## 05/06の経常利益の差異



## 2006年度為替レートの想定

米ドル:110円 ユーロ:135円

〔 当社は、輸出入がほぼバランスしており、  
為替レート変動の影響はあまり受けない。 〕

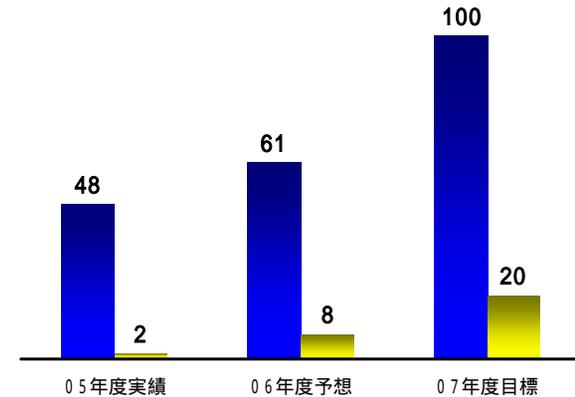
# 基幹事業、開発事業の事業分類

セグメント	事業分類	製品分類	代表的な製品	区分
油脂製品	食品事業	食用加工油脂	マーガリン	基幹
		健康関連食品	健康食品、栄養食	
	油化事業	脂肪酸	樹脂添加剤	
		脂肪酸誘導体	潤滑剤、冷凍機油	
		界面活性剤	洗浄剤、乳化剤	
化成製品		EO・PO誘導体	基礎化粧品原料、セメント混和剤	基幹
	化成事業	有機過酸化物	樹脂の重合開始剤	
		石油化学品	化学品の基礎原料	
		機能性ポリマー	防曇剤	
		機能性フィルム	ARフィルム、ペンフィット®	
	ライフサイエンス事業	生体適合性素材	MPC	開発
	DDS事業	薬物送達システム用製剤材料	原薬修飾剤(薬効増大)	
	電材事業	電子材料	液晶表示、高周波基板	
	防錆事業	特殊防錆処理剤	防錆剤	
火薬・加工品	化薬事業	産業用爆薬類	含水爆薬、雷管	基幹
		防衛装備品	弾薬類、ミサイル用固体燃料	
		宇宙開発製品	宇宙ロケット用固体燃料	
		自動車用安全部品	シートベルト用ガス発生器	
		関連製品	ネットランチャー®、海洋機器	

# 開発事業3部門の進捗状況

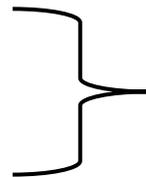
(単位:億円)

	2004年度 (05/3)実績	2005年度 (06/3)実績	2006年度 (07/3)予想	07中計 当初目標
売上高	(39)45	48	61	100
経常利益	1	2	8	20



## 開発事業3部門への設備投資25億円(04~06年度合計)

2004年度: 8億円  
2005年度: 12億円  
2006年度: 5億円



PEG修飾剤新工場  
MPC製造設備増強  
高周波基板パイロット設備新設



開発事業3部門は、ほぼ07中計に沿った形で進捗している。

## 開発事業3部門の現状

### ライフサイエンス事業

- ・MPCは主力のハード・コンタクト用ソリューションが堅調。
- ・化粧品用途も高級ブランド用として国内外メーカーで採用増加。
- ・ソフトコンタクト用消毒剤MPS(医薬部外品)を今月上市。  
今後の主力製品の1つとして注力。
- ・MPC配合薬用クリーム(医薬品)も上市、拡販中。

### DDS事業

- ・拡販は順調に推移。(PEG修飾剤等)
- ・修飾剤新設プラントでGMP対応の生産を順調に開始。

### 電材事業

- ・ブロック酸の特徴を活かした「液晶用1液型OC材」の販売活動を本格化。
- ・高周波基板用パイロット設備が完成。本格的に市場開発を開始。  
(ミリ波用途、携帯電話用途)
- ・独自技術の「シート型リチウムイオン2次電池用電解質」のプロト完成。  
市場調査を開始。

# 基幹事業の体質強化

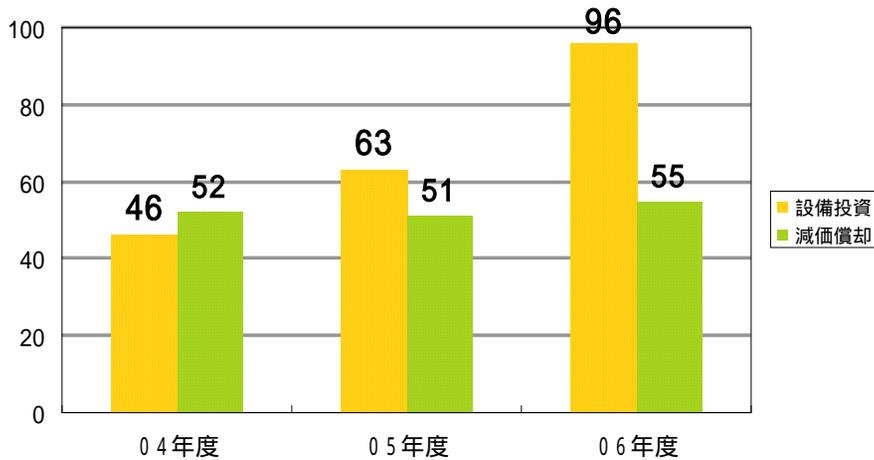
(単位:億円、%)

	2004年度実績 (2005/3期)	2005年度実績 (2006/3期)	2006年度予想 (2007/3期)	07中計 当初目標
売上高	1,292	1,384	1,439	1,450
経常利益	87	115	112	95
売上高経常利益率	6.7	8.3	7.8	6.6

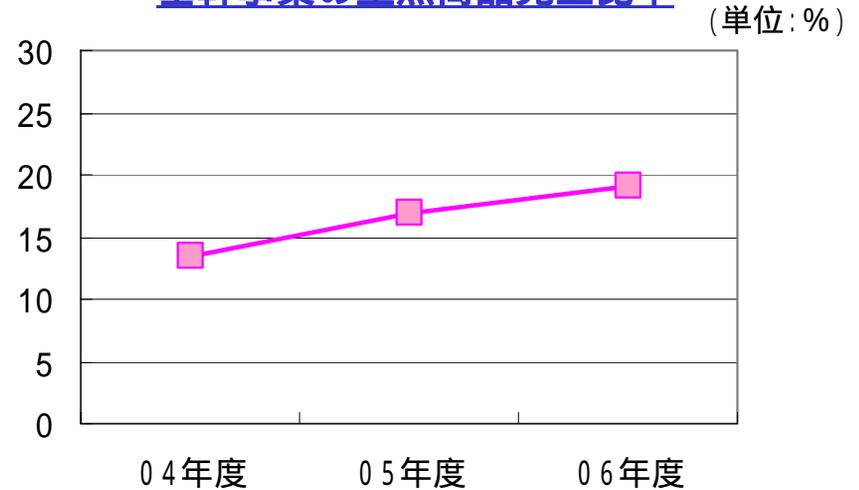
- ・油化事業は、脂肪酸誘導体(電材向け感光材原料、トナー用ワックス、製紙用薬剤等)が堅調。医薬・化粧品用PAG等EOPPO誘導体も伸びている。
- ・化成事業は、ARフィルムや自動車用防曇塗料が好調。有機過酸化物は堅調に推移。
- ・化薬事業は、産爆、防衛とも06年度が底。
- ・食品事業は、機能性栄養素を強化した医療栄養食や油脂コーティング技術を用いた機能性食品が順調に増加。  
食用油脂は市場の縮小傾向の中で、横這いを維持。
- ・防錆事業は、自動車部品用途のグローバル展開で順調な伸びを維持。

# 基幹事業の体質強化

基幹事業の設備投資と減価償却 (単位:億円)



基幹事業の重点商品売上比率 (単位:%)



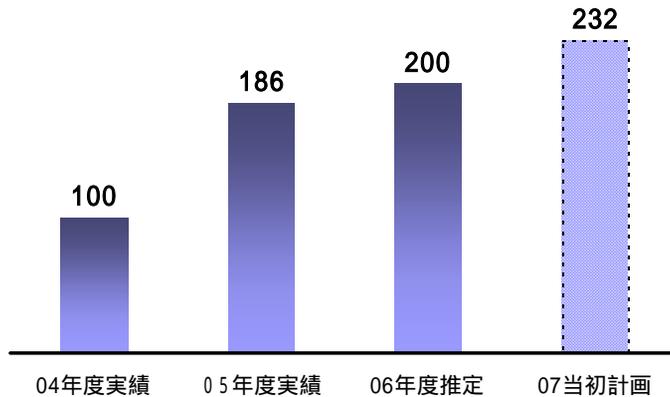
## 主要な設備投資

- ・感光材原料製造設備増設
- ・トナー用ワックス関連設備新設
- ・ARフィルム3号機及び4号機新設
- ・新型防錆剤新工場建設

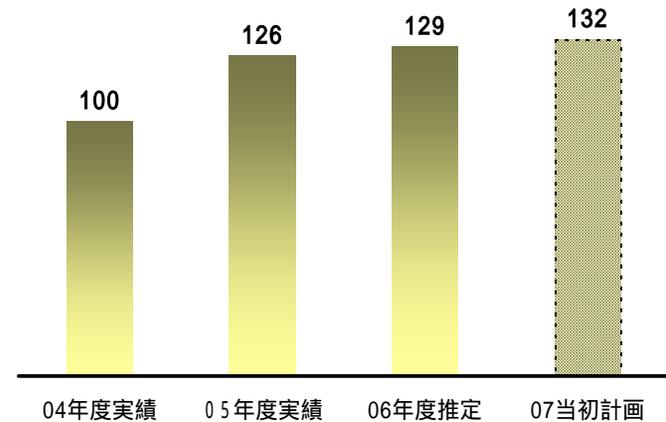
# 基幹事業の有望商品売上高推移

(04年度を100とする指数)

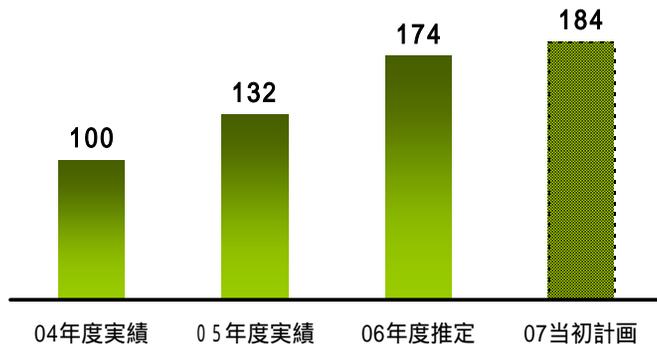
## 機能性フィルムの売上推移



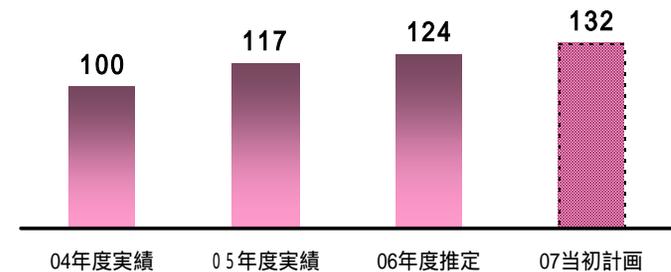
## 健康関連食品の売上推移



## 防曇塗料の売上推移



## 防錆剤の売上推移



# 内部統制システムの充実

## コンプライアンス機能の充実

- ・当社及びグループ会社を対象にした従来の監査役監査、経理監査に加え、内部監査部門の強化を検討。
- ・公益通報制度以前から、倫理委員会制度に加え、内部通報制度を設定済み。

## レスポンスブル・ケア活動の強化

- ・産業事故の多発を背景に本年4月施行の改正労働安全衛生法に対応し、労働安全衛生マネジメントシステム(OHSMS)を取り込んだ「労働安全衛生方針」を当社「RCに関する経営方針」の一部として制定済み。
- ・休業災害ゼロ、重大な設備災害ゼロを目標とする。
- ・安全の確保、環境保全の推進、品質管理の徹底を引き続き重点項目として注力。

## リスク管理機能の整備

- ・債権管理委員会、安全保障輸出管理委員会、情報セキュリティ委員会等委員会組織での活動により、リスクの未然防止と最小化を図っている。

- ・本資料はあくまで弊社をより深く理解いただくための資料であって、本資料による投資等何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・本資料は、現時点で入手可能な情報に基づいて弊社の判断により作成されておりますが、実際の業績が様々な要素により計画とは異なる結果となり得ることをご承知おきください。
- ・本資料のご利用に関しましては、ご自身の判断と責任にてお願いいたします。

お問い合わせ先 : 日本油脂株式会社 経理部(IR室 石川、棚尾)  
住 所 : 東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号  
電 話 : 03 - 5424 - 6651  
F A X : 03 - 5424 - 6803  
ホ ー ム ペ ー ジ : <http://www.nof.co.jp>